平成26年度事務事業評価シート	該当事業（評価対象外事業は基本情報のみ記載）		
	一般事務	公共建設事業	評価対象外事業

事務事業名	交流促進事業
予算科目	2 款　1 項　7 目
総合計画での位置付け	教育・文化・スポレクの振興～うるおいと生きがいのひとづくり～ 文化の振興
所管課情報	担当課：　総務企画課　電話番号（内線）：　508
記入者情報	所属長：　海田 秀司　担当責任者：　高橋 洋司
事業の性格	法定事務
実施期間	【開始年度】 平成　17 年度　【開始年度】設定なし
事業の対象	伊予市・セーラム国際交流委員会
根拠法令等	伊予市国際交流事業支援補助金交付要綱
事業の目的	市民の国際交流活動の活性化と拡大を図る。
事業の内容	国際交流活動を行う団体が実施する外国人と住民の交流・国際理解・国際協調を推進しようとする事業に対して補助金を交付する。
改善策の具体的取り組み（当初）	セーラム市からの派遣生受入れについて、伊予市国際交流委員会と連携し実現を図る。
改善策の具体的取り組み	セーラム市との交流を更に深めるため、経済交流に向けた動きを加速させる。

事業費及び財源内訳

項目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	7,381	9,133	8,883	8,949
	人件費	1,627	1,627	1,545	1,590
	合計	0	10,760	10,428	10,539
人件費内訳	人工数	0.20	0.20	0.19	0.20
	人件費単価	8,135	8,135	8,135	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	1,627	1,627	1,545	1,590
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	100	0	1,000
	一般財源	9,008	10,660	10,428	9,539

事業活動の実績（活動指標）

項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
伊予市・セーラム国際交流委員会の開催	回	4	4	3	4
中学生派遣人数	人	16	16	16	16

向こう5年間の直接事業費の推移

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	8,100	8,100	8,100	8,100	8,100	40,500

成果指標				
成果指標	伊予市・セーラム国際交流委員会（事業部会含む。）の開催回数			
指標設定の考え方	本市の国際交流事業の方向性等について検討を行った結果、オレゴン州セーラムとの将来的な友好都市の締結も視野に入れた継続的な交流活動を目指すことと決定したため、当該活動の推進団体である国際交流委員会を設立し、協議・検討を行った回数を指標に設定した。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目　標	3	3	3	3
実　績	4	4	0	0

自己評価				
自己評価（担当責任者）	妥当性	目的の妥当性	2	D
		市民ニーズへの対応	2	
		市の関与の妥当性	1	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	2	D
		コスト効率	2	
		受益者負担の適正	2	
課題認識	中学生などの相互訪問の実現が交流の基本であり、特に、海外からの派遣生の受入れ体制の構築には早急に取組む必要がある。ただ現状として、本事業の主体となる国際交流委員会の活動については、本市中学生のセーラム市へのホームステイに終始しており、これ以上の進展は望めないように思える。5年目の事業を終えて、国際交流委員会が考える経済交流や派遣生の受入れについて、本市のスタンスを明確にする時期かもしれない。このままホームステイを中心とした中学生の海外派遣を続けるのであれば、民間委託の推進、派遣先の変更、費用負担の軽減など、事業全体を見直したい。 なお、本年度はセーラム市長が来市され交流に繋がる動きも見られたが、経済交流を含めて今後に繋げるためには、活動計画の具体化、組織体制の強化、活動費の充実など、根本的な見直しが必要である。			

一次評価				
一次評価（所属長）	妥当性	目的の妥当性	2	D
		市民ニーズへの対応	2	
		市の関与の妥当性	2	
	有効性	事業の効果	2	D
		成果向上の可能性	2	
		施策への貢献度	2	
	効率性	手段の最適性	2	D
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	2	
課題認識	現在の本事業（交流促進事業）の総合計画での位置づけが、『文化の振興』となっており、この位置づけからすると、現在実施している「中学生海外派遣事業」においてその役割は一定果たされていると考えられるが、これについてもセーラム市からの助成がないということもあり、オレゴン州セーラム市側からの学生派遣がなく、一方向だけの“交流”に終わっている現状がある。 本来の自治体の交際交流については、将来の「姉妹都市」「友好都市」等を見据えた、経済、観光など産業面での交流が中心となるべきであると考えられるが、オレゴン州セーラム市とのこれまでの交流では一部取り組みを進めたものの進展していない。 本事業の主体となっている国際交流委員会、伊予ロータリークラブとも調整・協議し、学生に国際経験、国際感覚を身に付けさせる「海外派遣事業」に特化させるか、あるいは本年度確立した本市シティブランドを活用できる産業分野での国際交流に発展させるか、県における台湾との交流促進なども見据え、本事業の見直しを検討する必要がある。			

二次評価	
二次評価（所属部長）	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	担当責任者と一次評価者の課題認識に記述されているように、今後のセーラム市との交流事業について、市としての展望を示す必要がある。

行政評価委員会の答申	
外部評価 （行政評価委員会）	

経営者会議の最終判断	
事業の方向性	下記の点を見直しの上、継続する。
意見、課題	参加者負担のあり方や生徒の選抜方法も見直すこと。今後の方向性を探求すること。